

# 東北支部年報

第40号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15

日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@nth.biglobe.ne.jp



## 巻頭言

### 他人を思いやる気持ちを取り戻そう

東北支部長 石川 善美

この2月初旬には小さな新聞記事だった新型コロナウイルスの感染は、あっというまに世界中に広まり、各地で出された緊急事態宣言により町から人ごみが消え、社会に暗い影を落とす事態となりました。当学会も、全国大会が中止になったほか、東北支部でも今年度の総会やみちのくの風が中止となりました。非常事態とは、大地震などの自然災害だけではない、思いもかけないところに潜んでいるものだ、とつくづく思い知った次第です。経済的な影響も大きく、建築業務に従事している支部会員の皆さまの中にもこの件で大変ご苦勞されている方がたくさんいらっしゃるかと推察いたします。ただただ、事態の一日も早い収束を祈るばかりであります。

さて、私は今年5月末日をもって支部長の任期が終了いたします。2年間、なんとか支部を運営して参りましたが、この間、支部役員の方々を始め、関係する多くの皆さまから一方ならぬご支援とご協力をいただきました。記して衷心より感謝申し上げます。任期を終えるに当たり、少し思うところを以下に記します。

まず第一は、震災の伝承についてであります。来年は震災から10年ということで、各地でいろいろな行事が実施されることと思いますが、学会としても、この10年の復興をどう総括するのか、この経験を今後の自然災害にどう生かすのか、など、社会に発信していくことが求められることでしょう。とくに東北支部は、被災地として震災伝承の意義を強く訴えることが重要ではないか、と思っています。第二は、「みちのくの風」についてであります。毎年東北各県を巡回すること

で地方の建築的課題を共有する、という当初の目的が、最近はいささか疎かにされているように感じます。研究発表題数が減少して、私の在任中の2年はいずれも1日行事になってしまいました。これでは地方で開催する意味がありません。この問題意識を持って、今年度の役員会では、発表登録費を減額するとともに新たに「建築探訪」を計画して2日行事に戻すことにしたところですが、開催時期の問題や他学協会との連携の可能性などを含めて、さらなる検討が必要です。第三は、東北建築賞についてであります。作品賞については、作品発表会が第一次審査会として毎年一定の応募数があり、選考システムとしてうまく運営されているように思いますが、問題は研究奨励賞と業績賞です。応募数が少なく、毎年苦慮しています。とくに業績賞は長いこと応募自体がありません。本部学会賞の「建築文化賞」も同様の悩みを抱えているとのことですので、共通の課題があるのかもしれない。改善が望まれるところです。

以上、いくつか気づいた点を述べましたが、これらはいずれも次期支部長および役員会マターになるもので、僭越のそしりを免れません。なにとぞご容赦の程お願い申し上げます。

冒頭に、新型コロナウイルスに翻弄される社会状況について記しました。生活必需品の確保が不安視されたり、感染者を犯罪者扱いしたり、我々の社会秩序は疑心暗鬼に対して何と脆(もろ)いものではないでしょうか。しかし、このような時だからこそ、成熟社会に生きる我々は冷静沈着が必要であり、他人を思いやる気持ちを取り戻すことが大切ではないでしょうか。最後になりますが、支部会員諸賢のますますのご健勝を祈念して巻頭言といたします。

## もくじ

巻頭言	1
企画記事	2
第40 回東北建築賞(作品賞)選考報告	5
第40 回東北建築賞(研究奨励賞)選考報告	9
第30 回東北建築作品発表会報告	9
第39 回東北建築賞表彰式及び展示会報告	9
日本建築学会「作品選集2020」東北支部選考経過	10
2019 年度設計競技東北支部審査報告	10
2019 年度第82 回東北支部研究報告会報告	10

2019 年度第5 回東北支部建築デザイン発表会	11
2019 年度日本建築学会東北支部総会報告	11
研究部会活動報告	12
支所だより	15
支部役員会から	18
支部役員名簿	19
日本建築学会東北支部2019 年度事業報告	20
日本建築学会東北支部2020 年度事業計画(案)	22
法人・賛助会員名簿	24

## (1) 司法支援建築会議東北支部の設立と活動

司法支援建築会議東北支部運営委員長 吉野 博

司法支援建築会議の東北支部が2019年4月1日に設立されました。支部としては、東海支部、北海道支部、近畿支部に次いで4番目になりますが、本稿では、その経緯、目的、活動内容について報告いたします。

日本建築学会に司法支援建築会議が設立されたのは2000年です。「支援建築会議」という会議体は、日本建築学会が、より積極的に社会に貢献する活動として、会長直属の会議体として立ち上げたもので、現在は、①司法支援建築会議、②住まい・まちづくり支援建築会議、③子ども教育支援建築会議の三つが運営されています。そのなかで、司法支援建築会議は最初に設立されました。

その目的は、「建築関係訴訟に関して、学会が保持する厳正中立的な立場から裁判所に対する支援ならびに裁判所の協力のもとに裁判判例等の建築紛争情報の調査分析を行い、その成果の公表を通じて、学会会員への啓発と建築の学術・技術・芸術の進展に、さらには社会公共に寄与すること」です。

東北支部の設立の契機は、一昨年(2018年)の日本建築学会大会(東北)において、付随行事として開催された「第8回 建築紛争フォーラム2018」でした。そのフォーラムを開催した後に、有志が集まり支部を設立しようということになりました。支部設立の目的は、上記の司法支援建築会議の目的に沿って、建築関係のトラブルに対して支部が適切に対応し、また裁判所の支援を円滑に行うために、情報交換のハブ機能を担うということです。その後、設立準備会を経て、2019年2月に開催された本部の司法支援建築会議運営委員会に諮り正式に承認されました。現在、支部の会員は19人です。

2009年5月11日には、東北支部の発足記念講演会を開催しました。その際には、小野徹郎名古屋工業大学名誉教授(司法支援建築会議運営委員会 元運営委員長)から「司法支援建築会議のこれまでとこれから」と題し、小川理佳判事(仙台地方裁判所)からは、「近年の建築紛争の特徴と課題」と題して講演をいただきました。

また、活動の一環として、第1回建築紛争研修会を2019年10月30日に開催し、事例紹介として中居浩二会員(宮城県建築士事務所協会 専務理事)からは、「専門委員・調停委員の実務について」と題し、松本純一郎会員(日本建築家協会東北支部 / 松本純一郎設計事務所)からは、「判断の難しい事例の紹介」と題して講演をいただき、その後、櫻井一弥会員(東北学院大学教授/司法支援建築会議東北支部運営委員 幹事)をモデレーターとして、砂金隆夫会員(宮城県建築士会会長)、中居浩二会員、松本純一郎会員を交えてパネルディスカッションを開催しました。

今後もシンポジウム、研修会を開催していく予定です。建築紛争は無いことが望ましいのは当然ですが、日本全体としては増加

の傾向にあります。建築学会東北支部の会員にも御協力・ご支援をいただきながら尽力したいと思います。よろしくお願いいたします。

## (2) 「みちのくの風2019 岩手」開催報告

前常議員 崎山 俊雄

開催日:2019年6月29日(土)

会場:アイーナ 岩手県民情報センター

### 1. 第82回支部研究報告会

発表題数:74題

参加者:118名

・昨年度に対し、発表題数は5題減、参加者数は6名増であった。ただし参加者数は記帳者数に基づいているため、実際はこれより若干多いと思われる(未記帳者)。

・構造分野の発表会場において席数が不足し、開始直前に椅子と机を追加する事態が生じた。その他は概ね順調に進行された。

### 2. 第5回建築デザイン発表会

発表題数:4題

参加者:16名

・昨年度に対し、発表題数は5題減、参加者数は22名減であった。研究発表と同様に、参加を促す取り組みが必要と思われる。

・発表会は、順調に進行された。

### 3. 招待講演

テーマ:「自然災害から何を学んできたのか」

講演者:緑川光正氏(建築研究所理事長)

参加者:60名

・これまでの自然災害と建築諸法令の変遷、および近い将来に発生が懸念される地震に対する被害想定と対策などが紹介された。

### 4. 第5回建築デザイン発表表彰式

参加者:30名(崎山メモ 2018:45、2017は東北建築賞の表彰式を兼ねているが70)

・懇親会場にて、表彰式が順調に進行された。

### 5. 懇親会

参加者:30名(崎山メモ 2018:29、東北建築賞の表彰式も実施して2017:70)

・前年度同様、一般料金3,500円、学生料金2,500円として開催した。

・参加者は、一般27名・学生3名。前年度と同程度の参加者数であった。

・生憎の天候で景色を望むことはできなかったが、和やかな懇親会であった。

## 6. 第39回東北建築賞受賞作品パネル展示・JIA 岩手地域会 作品展示会

参加者:延べ約80名

・展示用ボード(会場より借用)のサイズと仕様が事前に作成したレイアウトと異なっており、急遽、現地での調整が必要となったが、JIA 岩手地域会員および常議員の助力により対応した。

## 7. その他、全体的な報告事項・反省事項など

・鉄道駅に至近な会場であり、懇親会を除く全ての企画をワンフロアで納めたため、コンパクトでまとまりの良いみちのくの風となった。

・懇親会は別会場としたが、当日は天候も悪かったため、引率案内して対応した。

・会場の過半は、岩手県立大学のアイーナキャンパスを借用した。設営から撤去に至るまで、岩手県立大学には全面的に協力していただき、円滑な開催となった。

・会場(アイーナ7階)の構成上、発表会場の出入口がわかりにくく、案内用ボードを急遽、用意した。また、アイーナから借用したプロジェクトが VGA ケーブルの接続に際して問題があり、当日朝に機器の変更対応が生じた。

・発表題数が最も多かった計画分野に最も大きな部屋を割り当てたが、聴講者数は構造分野の方が多く、席数が不足するという問題が生じた。

・当日朝の会場準備、撤収作業に多くの常議員の参加が得られた。ただし、前日夕の参加者はやや少なめで、JIA 会員の助力を得た。

## (3) 親と子の都市と建築講座 2019 活動報告 もしもおうちが「スマート」になったら。

環境工学部会 菅原 正則

日時:2019年12月28日、10:00~12:30

場所:せんだい環境学習館 たまきさんサロン

講師:内海康雄(舞鶴工業高等専門学校 校長)

菅原正則(宮城教育大学 教授)

司会:菅原正則(前掲)

参加者:18名(小学生7名、中学生1名、保護者6名、運営スタッフ・講師4名)

### 趣旨(案内チラシより)

これまで身近に使われてきたモノに、センサーやデータ通信・処理の技術を加えて「スマートに(賢く)」すると、便利で無駄のない動きをするようになります。「スマートハウス」は、主に電気エネルギーを無駄なく使用するしくみを持ち、自然エネルギー利用に役立ちます。

この講座では、住まいをスマートにする意味について学び、その初歩的なしくみを電子部品で作って確かめます。

## 内容

開催に先立ち、司会の菅原氏より講座の趣旨説明があり、その後、はじめの講師として内海氏が紹介された。内海氏は2年前まで仙台高等専門学校建築学科の教授であり、東日本大震災で電力供給に関心が高まる以前から、街や暮らしのスマート化をいち早く手掛け、東松島市スマート防災エコタウン設立にも携わった。内海氏の講演の後、菅原氏によりスマートハウスの性能を理解する実験を行った。

## 1. 未来の住まいはどうか?—インターネットで世界とつながる—(下記は、講演概要)

良い住まいとはどんなものか?それには5つのポイントがある。「安全」地震や火事に強いこと、「使いやすい」寸法や設備が目的にあっていること、「快適」温度や色など感覚的に心地よいこと、「美しさ」風景が感動や安らぎを与えること、「コスト」初期費用と維持費用が価値に見合うこと、である。スマートとは、利口になる、気が利く、の他に「抜け目がない」の意味もある。住まいがスマートになるとは、太陽光パネル、蓄電池、AI、スマート家電、HEMS、インターネットが導入され、それらが連携(センサー→判断→動作作成→実施→センサーの繰り返し)してよい住まいの条件を向上させることである。皆さんの一日の生活がどうなるか、想像してみよう。でも、インターネットを通じて、プライバシーが漏れたり、住まいを乗っ取られたりする危険性にも注意が必要である。



住まいのスマート化に関する講義 (内海氏)

## 2. 「スマハキット」でスマートハウスの実力を体感しよう

まず、LED と Cds 照度センサーを組み込んだ建物模型、センサーボード(ちっちゃいものくらぶ NanoBoard AG)、ノートパソコンを接続し、センサーボードを操作するための Scratch の動作確認を行った。パソコンは LED へ電源供給せず、リレーを通じて Scratch の自作プログラム(ON/OFF モード、可変調光モード、HEMS モードの切り替えと、計測機能を持つ)により出力制御のみ行う。電源と LED 制御の組み合わせについて、①電池+ON/OFF、②電池+可変調光、③手回し発電(コンデンサなし)+可変調光、④手回し発電(コンデンサあり)+可変調光、⑤手回し発電(コンデンサあり)+HEMS、の5段階で変化させ、参加者は、それらを1分チャレンジ(1分間でどれだけ目標の明るさに調整できるかを競う)で比較実験することにより、蓄電(コンデンサ)や HEMS を用いた際の結果の向上を体感した。最後に、③手回し発電(コンデンサなし)+可変調光の組み合わせにおいて、1分チャレンジの成績上位3名に粗品を贈呈した。



スマハキットの組み立て方をWebカメラで説明する（菅原氏）



パソコンのモニターで状況確認しながら1分チャレンジに挑む

### 3. 参加者の感想

講座終了時に、参加家族6組にアンケートを実施した。

○講座の内容はいかがでしたか？感じたものに○をつけて下さい。

回答は、大変満足3、満足3、やや不満0、不満0であった。おおむね満足して頂けたようである。

○よかった点、わかった点をおしえて下さい。

回答には「コンデンサー、HEMS の働きが体感として理解できた点は良かった。」「最初の講義でスマートハウスの概略が分かって良かった。」「ほとんど、くみ立て、プログラムしていて、いいと思いました。」「子供にもわかりやすい内容、丁寧な説明でした。」「スマハキットは子供でも組み立てが出来、手動発電も面白く子供向けの講座としてとても良かったです。」「準備（パソコンなど）がしっかりされていて、無料でこんなに教えてもらえてすごいと思いました。ありがとうございました。」という肯定的なものが多かった。しかし、「電子工作をもっとたくさんしたかった。」「募集時点で対照年齢がわかりにくい。」という指摘もあり、改善に役立てたいと考えている。

○今後、今回のテーマのような講座があれば参加してみたいと思いますか？

回答はすべて「参加する」であった。関心の高さが感じられた。

○他にどのようなテーマの講座があれば参加したいと思いますか？

回答には「ロボット」「実生活に使えるスマートハウスに役立つ電子工作をしたい。」「未来、最先端を感じられるテーマ」という本講座に類似の内容以外にも、「小さいものを見る」「子供が学べる講座であれば、積極的に参加させたいと思います。」「子供の興味は幅広く、親としても限定せず関心を育てていきたいと思っています。」といった広がりのあるテーマへの要望が感じられた。○そのほかに、ご意見・ご感想をおしえて下さい。

回答には、「わかりやすいご講義、ありがとうございました。」の他、内海氏からの仙台高専ジュニアドクター育成塾の紹介を受けて「高専の方も調べて参加してみたいと思います。」という感想も寄せられた。

募集にあたって、昨年度には申込開始5日で定員に達してしまったものの、当日のキャンセルにより定員 10 組に対する参加者が半分に留まる残念な結果であった。今年度はそれを踏まえて申込に GoogleForm を用いることし、申込数に制限を設けない代わりに事前課題を提出させた。申込数は、開催日が年末であったこともあり6組に留まったが、キャンセルは生じなかったため、募集方法として妥当であったと考えている。

昨年度、今年度と同様の講座を仙台で続けてきたが、他地域での開催を望む声もあるので、次年度はそれに対応した企画を予定している。「親と子の都市と建築講座」の意義を実施する現場では感じており、学会主催の枠組みの継続に期待している。

## (4) 親と子の都市と建築講座 2019 活動報告 親と子のやさしい構造力学講座

福島支所長 大竹 健義

### 1. 開催趣旨

小・中学生を対象とした建築構造に関するワークショップを通して、建築を楽しく知ってもらい、建築への興味の醸成を図ることを目的とした。

### 2. 開催概要

日時:2019年8月24日(土)13:00~16:00

場所:福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ

講師:福島県建築安全機構 専務理事 古河 司氏

参加者:小・中学生親子等 13名(5チーム)

### 3. 建築講座

#### (1)座学

「応力の体感」や「力のかたち」に関する座学が進められた。はじめに「応力の体感」では、身近にあるペットボトルを参加者全員が手に取り、持ち上げるなど、引張・圧縮・曲げの応力を体で感じとった。「力のかたち」では、紙や定規、秤を使い、かたちの違いによる引張と圧縮応力の違いが説明された。また、断面が長方形で棒状のスポンジを使い、断面形状による曲げへの抵抗力の違いを学んだ。感じる力の違いを確かめようと試行錯誤を繰り返す子ども達の姿が印象的であった。



応力を体感する参加者



計測の様子

## (2) ワークショップ

座学を参考とし、一枚のボール紙で70cm離れた台に架ける「梁」を製作し、吊り下げられるおもりの重さを競った。最初に、スタッフが製作した単純な梁で実演を行った後、5チームに別れ、製作する梁の形や作業手順を話し合った。スケッチブックにイメージした梁や図面を描き、模型で実験し、案を検討するなど、各チームが独自に検討・製作を進め、5チーム全てが工夫を凝らした素晴らしい梁を完成することができた。



ワークショップの様子

## (3) 計測

計測前に、製作した梁がどのくらいの重さに耐えられるか予想重量と工夫した点を設計者である子ども達自身が説明した。計測では予想した重量を超える梁、予想に反し破壊した梁もあり、その度に大きな歓声が上がった。部分的な破壊が進んだところでは、講師から梁が破壊に至るまで、実況中継さながらの力学的な解説がなされ、親子の視線が梁に釘付けになるほどの盛り上がりを見せた。

## (4) 講評・表彰

講師から各チームの講評があり、それぞれの特徴や工夫などを参加者で共有した。講評の後、事務局から結果を発表し、各チームの子ども達一人一人に成績をたたえた賞状を授与した。



講師による講評

## 4. おわりに

参加者した小・中学生から、「楽しかった」「建築に興味を持った」などの心強い感想が得られた。また、前回「再挑戦したい」と語っていた子どもも、設定条件を前回よりも厳しくしたにもかかわらず、大きく記録を伸ばしたことなどもあり、「建築への興味の醸成」を図る本講座の開催趣旨は達成されたと思われる。

今後は、より効果的な企画となるよう更なる進化を試みたい。最後に、本講座の開催に当たり、御協力いただいた関係団体及び関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



全員で記念撮影

# 第40回東北建築賞（作品賞）選考報告

選考委員長 増田 聡

## 1. 応募作品

小規模建築物部門	5 作品
一般建築物部門	24 作品
計	29 作品

## 2. 選考経過

### (1) 事前打ち合わせ会議

2019年9月28日(土)17:00 ~ 18:00

於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

### (2) 東北建築作品発表会

2019年10月5日(土)10:00 ~ 17:00

於 せんだいメディアテーク7階スタジオシアター

第30回東北建築作品発表会において応募29作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

### (3) 第1次審査会

2019年10月5日(土)17:15 ~ 18:15

於 せんだいメディアテーク2階会議室

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。小規模建築物部門、一般建築物部門、その他の建築物部門を別々に選考せず、まとめて投票することになった。全作品の中から一人5票以上8票以内で投票することとなり、各委員の投票および発表内容を総合的に考慮した結果、小規模建築物部門2作品、一般建築物部門11作品、合計13作品を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された13作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

### (4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して現地審査が行われた。

### (5) 第2次審査

2020年2月1日(土)13:00~17:00

於 日本建築学会東北支部会議室

まず、選考委員長より全体の進め方と評価ポイントの確認があった。その後、1作品ずつ現地審査担当委員からパワーポイント等により報告を受けた後、現地を確認した担当委員の印象・評価等を確認した。次に、作品についての質疑、審査委員の評価ポイント等についての討議を全審査員で進めた上で、投票および討議の結果、一般建築物部門から作品賞5作品と特別賞1作品、小規模建築物部門から特別賞1作品の計7作品を選定する事に決まった。

### (6) 総評

今回の応募作品の多くが公共建築で、とりわけ全国的にも建て替え期を迎えている庁舎建築が多かったものの、投票結果を一義的な選択基準として判断を行った結果、庁舎建築では傑出した作品がなかったため、作品賞として市民ホール、交流センター、学校、こども園、旧校舎リノベーションによる学習交流センターの5作品が、特別賞として旧旅籠リノベーションによる個人住宅と集会施設(交流館)が選出されました。ここ数年の流れと変わらず、歴史的建物のリノベーションによる再生・転用の事例が含まれています。また、復旧・復興事業として東日本大震災の地震・津波・原子力災害の被災地に建てられた施設も多く、コミュニティ再生や生活再建に果たす建築の役割と姿を改めて提案している作品として、この時期の東北建築賞の意義を再考する選考作業となりました。

### (7) 選考結果

作品賞 5作品

一般建築物部門

◆釜石市民ホール

【施主】釜石市

【所在地】岩手県釜石市大町

【設計監理】aat+ヨコヅマコト建築設計事務所

構造設計:Arup Japan

設備設計:Arup Japan

設計協力:AT/LA

舞台計画:空間創造研究所

建築音響:永田音響設計

防災計画:明野設備研究所

積算:二葉積算

照明計画:岡安泉照明設計事務所

家具デザイン:藤森泰司アトリエ

サイン計画:ダイアグラム+ノムラプロダクツ

アルゴリズムックデザイン:アンズスタジオ

テキスタイル:安東陽子デザイン

【施工】戸田建設・山崎建設 JV

一般建築物部門

◆旧長井小学校第一校舎

【施 主】長井市  
【所 在 地】山形県長井市ままの上  
【設計監理】建築:株式会社鈴木建築設計事務所  
(建築協力:YAMMY DESIGN 一級建築士事務所)  
構造:株式会社鈴木建築設計事務所  
設備:株式会社建築設備設計研究所  
【施 工】建築:那須建設株式会社  
電気設備:大竹電気工事株式会社  
機械設備:飯鉢工業株式会社

【施 主】東松島市  
【所 在 地】宮城県東松島市野蒜ケ丘二丁目1番地1  
【設計監理】建築:盛総合設計+シーラカンスK&H  
構造:佐藤淳構造設計事務所  
設備:盛総合設計・仙台総合設備計画  
空調: YMO  
【施 工】建築:住友林業  
機械:山下設備工業株式会社  
電気:株式会社ユアテック

#### 一般建築物部門

##### ◆九品寺こども園

【施 主】学校法人明照学園 九品寺こども園  
【所 在 地】福島県いわき市平大字九品寺町 3-2  
【設計監理】建築:株式会社アトリエ 9 建築研究所 代表取締役 呉屋彦四郎  
担当 土屋洋夢 井村武蔵 大場英明  
株式会社ジャクエツ 代表取締役 徳本達郎  
構造:雄設計室 代表 笠原雄次  
設備:株式会社環境プランナー  
代表取締役 福永俊春  
家具デザイン:有限会社イガラシデザインスタジオ  
代表者 五十嵐久枝  
サインデザイン:株式会社粟辻デザイン 代表者 粟辻美早  
【施 工】渡辺・山木特定建設工事共同企業体 代表者 渡辺大輔

#### 一般建築物部門

##### ◆須賀川市民交流センター tette

【施 主】須賀川市  
【所 在 地】福島県須賀川市中町 4-1  
【設計監理】建築:石本建築事務所+畝森泰行建築設計事務所  
構造:石本建築事務所(構造協力:オーク構造設計)  
設備:石本建築事務所  
家具:畝森泰行建築設計事務所  
図書館コンサルタント:アカデミック・リソース・ガイド  
市民協働コンサルタント:スティルウォーター  
サイン:日本デザインセンター 色部デザイン研究所  
展示:丹青社  
ランドスケープ:稲田ランドスケープデザイン事務所  
防災計画:安宅防災設計  
音響計画:唐澤誠建築音響設計事務所  
積算:柴田積算  
建築アドバイザー:安田 幸一  
【施 工】建築:三井住友建設・三柏工業共同企業体  
空調・衛生:新日本空調 / 電気:ユアテック

#### 一般建築物部門

##### ◆東松島市立宮野森小学校

#### 特別賞 2 作品

#### 小規模建築物部門

##### ◆湯守の旅籠

【施 主】菊池 玄輝  
【所 在 地】山形県上山市新丁  
【設計監理】井上貴詞建築設計事務所  
【施 工】山形建設株式会社

#### 一般建築物部門

##### ◆みんなの交流館 ならは CANvas

【施 主】福島県檜葉町  
【所 在 地】福島県双葉郡檜葉町大字北田字中満 260 番地  
【設計監理】都市建築設計集団/UAPP  
【ワークショップ コーディネーター】立命館大学産業社会学部教授 乾 亨  
【施 工】諸橋建設工業

#### (8) 講評

#### 作品賞

##### 【釜石市民センター】

被災した市民会館の復旧事業として計画されたこの施設は、敷地南側に立地する商業施設や広場とともに、釜石市の新たな復興拠点として位置づけられています。先行整備された釜石情報交流センターと施設をつなぐ大屋根が掛けられた広場は、小ホールとホワイエが同レベルに設定されている、創造活動の一体的な利用を促すとともに、賑わいを創出する拠点。特に可動壁により全面展開する小ホールは、多様な使い方をユーザーが考えるきっかけを促しています。大ホールと連携してレイアウト変更も可能となっており、大スパンを確保した構造計画とともに、多機能を具体化するデザインとなっています。1 階レベルにおいてバックヤードも含め比較的裏をつくらないデザインが工夫され、将来的な街に対する考え方も提示されています。運営体制との連携が設計プロセスにおいても試みられており、ハード・ソフト両面における復興まちづくりの公共施設のあり方として、東北建築賞作品賞として評価に値します。

##### 【旧長井小学校第一校舎】

本作品は、昭和 8 年に建てられたのち、現在は小学校としての

役割を終えて、長井市の「学び」と「交流」の拠点として生まれ変わった木造2階建て校舎のリノベーションです。この校舎は老朽化が進んだのちも、平成元年に大きな補修が施されることで大事に使い続けられて、平成21年には国登録有形文化財となりました。それゆえ、本作品でもかつての教室には、現在の用途にしたがった改修が施されていますが、米松の正目による床張りの廊下や、左右対称形の堂々たる中央階段、関係者からの聞き取り調査に基づいた赤みのスレート外壁などからは、かつての校舎としての記憶が想起されるように配慮されています。とりわけ特筆すべき点は、巨大な木造建築に免震レトロフィット工法を用いたことで、全国的にも類例がないにもかかわらず、東北地方で実現できたことには大いに価値があります。本作品は、地元市民の旧校舎に対する並々ならぬ熱意と誇りを、地元の設計者と施工者がくみ取り実現したものとして、今後も利用者から末永く愛されることが期待され、東北建築賞にふさわしいと評価されました。

#### 【九品寺こども園】

いわき市における九品寺こども園は、回遊性とポーラスに設けられた中庭により、一体的なつながりと豊かなこども環境が実現されています。「ことば」「からだ」「異文化」をテーマとした教育的なコンセプトに対して、スロープでつながれている回廊、遊戯室の周辺を取り囲む土間、敷地南側の通りと園庭を介する中庭など様々な場を設けることで、広がりのある空間を有しています。全体的に1階の階高を低くすることで、こどもの環境心理に適応させるとともに、上下階のつながりが無理のない計画になっています。また、アルコーブとなっているデンや収納の考え方など、こどもの発育と自由を担保する細やかな環境づくりへも配慮されています。更に周辺敷地の関係においては、敷地南側の通りに対してメッシュや遊具などで活動を見せつつ緩やかに分離する計画となっています。以上より都市における豊かなこどもの環境として東北建築賞作品賞として評価に値します。

#### 【須賀川市民交流センター tette】

須賀川市に東日本大震災の復興事業として計画された図書館機能や生涯学習機能を併せ持つ複合施設であり、想定よりはるかに多い入館者数が地域における施設の利用価値を裏付けています。計画プロセスについては、ワークショップなどを積み重ね、運営スタッフとの議論を踏まえ、それらのコラボレーションからハード・ソフト両面からの新たな使い方の形が提示されています。二つの通りを横断する土間を展開する都市的な提案と図書館、公民館、子育て支援施設の枠を超えて、情報と活動が融合する新しい公共空間として様々なスケールへの工夫と密度の高いデザインを具現化しています。また、施設の9つのテーマ語句に関連して、施設全体に図書を配置し、それに対応した什器類も計画するなど、コストを重視してデザインされている点などが高く評価され、東北建築賞作品賞として相応しいと評価されました。

#### 【東松島市立宮野森小学校】

震災による高台移転地の中核として、旧野蒜小と旧宮戸小の

合併により設立されました。造成による切土部に平屋を主体とした木造校舎群を配置し、隣接する「森のがっこう」を借景とする一方、盛土部を校庭としています。前面道路側に体育館、特別教室棟、図書室等を並べ、送迎バスの待合にも用いられる図書室は地域にも開放されます。奥に展開する教室棟は、間隔を置いて主屋に貫入されたいくつものハウスボックス(7.2m×9.0m)が特徴的で、教室部の全面窓やハイサイドライトとともに周囲の景観を取りこみ、明るい中廊下と多様な「場所」を創出しています。これらを包む架構はスギ製材を用い、斜交格子トラス構造で掛け渡した体育館はとくに伸びやかで心地よいです。また特別教室棟は2階建てとしながら体育館とともに地域への開放にも対応しています。庇のある主屋と庇のないボックスの意匠の異質感、全体的に黒を基調としたやや重い外観、校庭の疎遠感、オール電化の設備採用が最適か否か、といった指摘もなされましたが、経験値に裏打ちされた設計の秀逸さは、東北建築賞に値すると評価されました。

#### 特別賞

#### 【湯守の旅籠】

上山温泉街に、内装を凝らした座敷が連なる旅籠や座敷蔵など、約150年前に建てられた元旅籠を住宅にリノベーションした作品です。個人住宅であり、限られた予算のなかでの最大限の効果をうむ再生の工夫に特徴です。そのひとつは減築という解決策であり、後世の増築部などを大胆に解体し、自家菜園や明るい芝生へ転換しています。また半透明のツインポリカを2階床に挿入し、1階に明るい居室を実現する等、伝統的町家にはない新しい空間表現も実現されています。既存建物の事前調査や片づけなどの多くを施主はもとより、友人知人や大学生などの参画で進められた点も特徴であり、こうして培われた連携にもとづき、座敷蔵等を展示空間として活用するなどの試みも行われています。上山温泉街はこうした古い建物が集積する一方、空き家の進行などの課題も抱えています。本建物の再生設計や保存活用が、こうした地域課題の解決を促進する波及効果も期待され、特別賞としてふさわしいと評価されました。

#### 【みんなの交流館 ならは CANvas】

福島第一原発の事故により全町民の避難を余儀なくされた楢葉町。除染が完了し、平成27年9月に避難指示が解除され、新たなコンパクトタウンが形成されました。その中核となる商業・交流ゾーンに建設された「みんなの交流館・ならは CANvas」は、町職員・NPO・住民・設計者らがワークショップを重ねた集会施設です。壁をつくらない、地域材の活用、といったコンセプトのもと、木材で組んだ大屋根を鉄骨の柱で支持する構造としています。屋根架構は一般流通材を井桁状に組み上げ、コストを抑えつつ大スパンや大きな庇を実現しています。正方形平面の四周は、巨大木製サッシュが取り付けられ、全開放できます。野地板のやや荒いテクスチャ、所々の古材使用のキッチュさはありますが、それらを補ってあまりある、1階ホールの吹き抜けた伸びやかさが印象的であり、光、空調、冷暖房と、設計の苦勞が偲ばれ

ます。社寺を思わせる、おおらかで懐かしい現代の「がらんどろ」は、災害フロンティアで手を携える多様な人々を優しく包み込むことに成功しており、東北建築賞特別賞に相応しいと評価されました。

#### 第40回東北建築賞作品賞選考委員会

委員長・増田 聡	東北大学大学院 経済学研究科地域計画研究室
委員・前田 匡樹	東北大学大学院都市・建築学専攻
・最知 正芳	東北工業大学工学部建築学科
・石山 智	秋田県立大学システム科学技術学部 建築環境システム学科
・坂口 大洋	仙台高等専門学校建築デザイン学科
・中村 琢巳	東北工業大学工学部建築学科
・安部 信行	八戸工業大学感性デザイン学部 創生デザイン学科
・大沼 正寛	東北工業大学ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科
・六本木 久志	建築舎・アトリエR
・新沼 義雄	新沼義雄建築設計事務所
・飛ヶ谷 潤一郎	東北大学大学院都市・建築学専攻

見もあつたものの、本委員会では参考資料として提出された他の論文も合わせて考慮するなら、論文の水準は高く今後の発展性も期待できることから、研究奨励賞に値すると最終的に判断した。

以上より吉野氏の研究について、出席委員の評価と他委員による事前報告書の内容とを併せて集計した結果は、13名の委員がすべて合格(うち1名は推薦者、うち1名は委員長に一任)と判断し、本論文が研究奨励賞に相応しい業績であることを承認した。

#### 第40回東北建築賞(研究奨励賞)選考委員会

委員長・寺本 尚史
委員・西脇 智哉
・荻谷 智大
・飛ヶ谷 潤一郎
・後藤 伴延
・増田 豊文
・佐藤 健
・石山 智
・石井 敏
・山岸 吉弘
・相模 誓雄
・鈴木 道哉

### 第40回東北建築賞(研究奨励賞)選考報告

選考委員長 寺本 尚史

本年度(2019年度)の研究奨励賞への応募論文は、構造分野において吉野 裕貴氏(仙台高等専門学校)から提出された「三点曲げ実験による波型鋼板ルーフデッキの曲げ耐力」の1編であった。

本論文は、H形鋼梁の横座屈に対する連続補剛材として屋根折板の活用を検討するため、屋根折板により連続補剛された梁の横座屈載荷実験を行い、その結果をまとめたものである。両端支持のH形鋼梁の上にルーフデッキを接合し、梁中央部に屋根折板材の上部から載荷する三点曲げ実験の結果から、曲げ耐力や変形性状を把握した上で、現行の鋼構造設計基準による幅厚比規定を用いて、ルーフデッキの曲げ耐力に及ぼす幅厚比および無効幅の影響を明らかにしている。

本論文では、既往の研究において屋根材として使用していた断面の小さいサイディング材に変わり、屋根折板材として実構造物に使用されているルーフデッキを用いており、屋根折板が塑性化することによる影響など、実構造物に近い挙動を評価する段階に進んだ事がうかがえる。実験自体も非常に丁寧であり、論文内でも波型鋼板の曲げ特性が分かりやすく示されている。

また本論文に至る一連の研究において、H形鋼梁の部分架構載荷実験に加え、有限要素法による弾塑性大変形解析によって梁の横座屈補剛効果を明らかにしており、非常に高度な水準の研究であることに疑いの余地はない。対象論文では実験の結果のみが記されていて、推薦書の内容とは一致しないという意

### 第30回東北建築作品発表会報告

常議員(社会文化) 飛ヶ谷 潤一郎

2019年10月5日(土)に、「第30回東北建築作品発表会」がせんだいメディアテーク 7F スタジオシアターにて行われた。本発表会は、「東北地方におけるすぐれた建築活動を広く人々に知っていただくとともに、それを記録し、設計者および建築関係者の相互の研鑽の場とし、もって東北地方の建築にとっての共通課題の探求にあたること」を目的としている。

本年度は小規模建築物部門5作品、一般建築部門24作品の計29作品の発表があった。発表会および作品賞に関する簡単な紹介の後、増田聡選考委員長より発表にあたっての注意事項が説明された。各発表では、1作品につき発表8分・質疑応答2分の時間配分で、作品のコンセプトやアピールポイントに関するプレゼンテーションが行われ、活発な議論が交わされた。当会は設計者間の研鑽の場であるとともに、建築学科生には建築家のプレゼンテーションを学ぶ大変良い機会でもある。今後も大学などを通して積極的に周知を行い、より活気のある発表の場とするよう努めてゆきたい。

### 第39回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員(社会文化) 飛ヶ谷 潤一郎

第39回東北建築賞表彰式は、2019年5月11日(土)の日本建築学会東北支部総会の後にせんだいメディアテークにて行われた。本年の受賞は作品賞3作品、特別賞2作品、研究奨励賞部門2件であった。

表彰に先立ち、増田聡作品賞選考委員長と飛ヶ谷(研究奨励賞選考委員長)より選考経過報告と講評が行われ、続いて石川支部長より各受賞者に賞状・賞杯が贈呈された。表彰後、受賞者から受賞作品のプレゼンテーションが行われ、その後の懇親会では受賞者間の交流が図られた。本表彰式および展示会は、受賞者並びに作品応募者の方々をはじめ、選考委員長・選考委員・日本建築家協会東北支部など関係各位の準備と協力により開催できたものである。関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。

## 日本建築学会作品選集 2020 東北支部選考経過

東北支部選考部会長 中田 千彦

東北支部には21作品の応募があり、書類審査を経て13作品に対して現地審査を行った。震災の復興の最終局面とも言える公共建築の竣工が目立つ中で、震災以降の困難な地域社会状況に対して具体的かつ斬新な建築提案を試みる作品が多く審査対象のなったことも、今年度の特徴と言えるのではないだろうか。東北地方においても歴史性の高い地域において、その風土や景観を生かしながら若い世代の住人たちが、その地域固有の古くからの生活習慣を再解釈しながら新たな生活様式を生み出すために機能する建築や、震災で物理的、精神的、そして自然界にもダメージを受けた地域における誠実かつ実直な建築的な取り組みも改めて高く評価される結果となったと言える。支部ではそのうちの9作品を本部に推薦することとした。本部での審査会では、東北支部で検討議論した今年度の作品に対する見識が大きく反映される形で、7作品が掲載対象となっている。

## 2019年度日本建築学会設計競技 東北支部審査報告 課題：「ダンチを再考する」

審査委員長 小地沢 将之

審査委員会では、委員長を互選の後、応募総数14作品に対して5作品程度を支部入選とすることを確認の上、各審査員が5票ずつ投じた。

まず、5票を獲得したNo.3「養職都市-海水インフラが繋ぐ団地とシャッター街-」、4票のNo.5「屋根裏同盟」、同じく4票のNo.9「団地圏～生活のシンボルから地域のシンボルへ～」、同じく4票のNo.14「蝶々結び フェンスを解き、くらしを紡ぐ」の4作品については、それぞれ作品の完成度が高く、満場異義なく支部入選とすることとした。No.3は青森の養殖町の風情が豊かに表現されている点、No.5は大胆な2寸勾配での減築によって生

み出される空間の心地よさ、No.9は外部空間の構成に明確なポリシーが感じられる点、No.14は窓からの景色など生活者レベルでの検討がなされていた点などが評価された。

残る得票作品はいずれも2票を獲得したNo.4、No.6、No.7、No.13の4作品であった。これらについて、着眼点の適格さやプレゼンテーションの完成度、また場所性が十分に考慮されているかなどの視点で1作品ずつチェックを行い、支部入選相当であるか協議を行った。その後、あらためて当該4作品に対して各審査員が1票ずつ投じ、投票の結果、No.6「色を吹き込む「残す」を再考築「新しい」を再構築」が満票を得たため、支部入選とすることとした。この作品は、緑や食をテーマとした空間づくりが魅力的であった点が評価された。

以上の通り、本審査委員会では、5作品を支部入選とした。私事ながら、学生時代に支部入選を経て全国で優秀賞を獲得した経験があり、支部での審査員の役どころも2度目となる。本賞が応募者のキャリア形成の大きな礎となることを知っているだけに、慎重な審査を行い、入選作品を全国に送り出した。応募者の皆さんの今後の活躍を期待したい。

委員長・小地沢 将之 宮城大学准教授  
委員・小林 仁 仙台高等専門学校教授  
・菅原 麻衣子 she | design and research office 主宰  
・飛ヶ谷潤一郎 東北大学准教授  
・馬渡 龍 八戸高等専門学校准教授

## 2019年度第82回東北支部研究報告会報告

常議員(学術教育) 二科 妃里

2019年度東北支部研究報告会「みちのくの風2019 岩手」は、2019年6月29日(土)にアイーナいわて県民情報交流センターを会場に開催された。発表総数は、建築デザイン発表会4題、計画系38題、構造系36題の合計78題であった。当日は5会場に分かれ、建築デザイン発表会・環境・計画・構造・材料施工の分野ごとに活発な意見交換が行われた。

また同日には、第39回東北建築賞受賞作品パネル展示会並びにJIA岩手地域会等作品展示会が開催された。

各発表会終了後、構造系招待講演として緑川光正氏(国立研究開発法人 建築研究所理事長)をお招きし、「自然災害から何を学んできたのか」と題した講演会が行われた。その後、会場を移動し、第5回建築デザイン発表会の表彰式が開かれ、受賞者によるプレゼンテーションが行われた。

本報告会では、いずれの企画において盛会のうちに終了することができた。これもひとえに、報告会に参加されたの方々をはじめ、準備運営に関わった関係各位のご支援あつてのことと、改めて感謝申し上げたい。

## 2019年度 第5回日本建築学会東北支部

### 建築デザイン発表賞 選考報告

選考委員長 櫻井 一弥

#### 1. 応募講演

4 講演

#### 2. 選考経過

##### 2-1. 建築デザイン発表会

2019年6月29日(土) 13:00~13:44

於:アイーナいわて県民情報交流センター7階小田島組☆  
ほ〜る(岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目7-1)

応募4講演のポスター掲示、ならびに発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介されるとともに、活発な質疑回答が行われた。発表会は滞りなく進められた。時間厳守にご協力いただいた発表者各位、聴講者各位に感謝申し上げます。

##### 2-2. 選考委員会

2019年6月29日(土) 14:20~15:20

於:アイーナいわて県民情報交流センター7階 学習室5

発表全体を聴講した建築デザイン教育部会の部会員5名(下記参照)で、建築デザイン発表賞にふさわしい講演を選出することとした。

内規に従い、計4件の講演より1つの講演を選出することを確認し、部会員相互で協議した。様々なタイプのプロジェクトがある中で、どのように賞を選出するか、議論が難しかったが、最終的にはそれぞれのプロジェクトを多角的な視点から評価し、議論を通して決定することとした。

その際、内規に記載の通り、建築デザイン発表会を欠席する部会員には事前に講演梗概を開示し、賞にふさわしい候補を挙げてもらうこととしていたが、欠席の部会員からは特に候補が挙がらなかったため、選考委員会に出席の部会員の意見で決定した。

結果、次節に示す講演に第5回建築デザイン発表賞を授与することとした。

委員長・櫻井 一弥 建築デザイン教育部会長 東北学院大学  
委員・小地沢 将之 建築デザイン教育部会幹事 宮城大学  
・増田 豊文 東北文化学園大学  
・馬渡 龍 八戸工業高等専門学校  
・大沼 正寛 東北工業大学

#### 3. 選考結果

第5回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞 1点

「かっちよ」

高橋 花歩 (敬称略) (仙台高等専門学校)

#### 4. 講評

「かっちよ」

本講演は、青森県津軽地方に多く見られる防雪柵に対して、現状の鋼製柵では景観上問題があることから、奥行き方向に厚みを持たせた帯状の空間を提案し、その一部を内部化することで新たな風景の創出を目指した計画について紹介したものである。タイトルとなっている「かっちよ」とは、津軽弁で防雪柵を意味する。

風洞実験をすることで柵の形状や並び方の検討を行っているほか、AIを用いたスマート農業を提案するなど、多角的に検討を行っている。

選考委員会では、例年になく賞の選出が難航し、一時は発表賞の該当なし、との話も出た。本講演に関して言えば、風洞実験を行っているものの、それが最終的に提案している形態こそま結びついていないこと、スマート農業と提案建築物の関係が希薄であること、外部空間となっている柵に囲まれたエリアを内部化するためのシステム検討が不十分であることなど、かなり多くの問題点が指摘された。しかしながら、見過ごしてしまいそうな農道沿いの工作物に焦点をあて、それを建築空間として提案しつつ新たな農業景観を描く構想力は評価すべきとの結論に達し、今回の賞に選出された。

## 2019年度日本建築学会東北支部総会報告

常議員 畑中 友

日時:2019年5月11日(土) 15:00~15:25

場所:仙台メディアテーク7階スタジオシアター

出席者:115名(委任状含む)

資料:

日本建築学会東北支部年報第39号

2019年度日本建築学会東北支部総会式次第

資料1-1:2018年3月31日現在 貸借対照表

資料1-2:2018年度 正味財産増減計算書(予算との比較)

資料1-3:2018年度 正味財産増減計算書内訳表

資料1-4:2018年度 同上(事業毎の決算比較)

資料2:2018年度 会計監査報告書

資料3-1:2019年度 正味財産増減予算書

資料3-2:2019年度 正味財産増減予算書内訳表

資料3-3:2019年度 正味財産増減予算書(事業毎の予算  
昨年度と比較)

崎山俊雄常議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

#### 1. 出席者数及び委任状の確認

出席者46名、委任状69通、合計115名の確認があり、東北支部会員(3月理事会報告人数)1113名の1/30(38名)以上に当たるため、本総会が成立することが確認された。

#### 2. 支部長挨拶

石川善美支部長による挨拶があり、昨年大会が盛会裡に開

催できたこと、東北支部の現状などが報告された。

### 3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名員として、原田栄二氏及び相模誓雄氏が選出された。なお、事業報告・決算報告は5月の本部通常総会での報告事項となっており、支部総会では報告のみとし議長は設けないこととした。

### 4. 議事

東北支部規程により、以下(1)(2)の事項について報告された。

#### (1) 2018年度事業及び会計に関する件

##### 1) 2018年度事業

本江正茂常議員より、支部年報19～20ページの「2018年度事業報告」に基づき、2018年度事業内容が報告された。

##### 2) 2018年度収支決算

町野東彦常議員より、資料1-1「貸借対照表」、資料1-2「正味財産増減計算書(予算との比較)」、資料1-3「正味財産増減計算書内訳表」、資料1-4「正味財産増減計算書(事業毎の決算比較)」に基づき、2018年度収支決算が報告された。

##### 3) 会計監査結果

崎山俊雄常議員より、資料2「会計監査報告書」の通り、2018年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。

#### (2) 2019年度事業及び会計に関する件

##### 1) 2019年度事業計画(案)

橋詰豊常議員より、支部年報21～22ページの「2019年度事業計画(案)」に基づき、2019年度事業計画案が説明された。

##### 2) 2019年度収支予算(案)

町野東彦常議員より、資料3-1「正味財産増減予算書」、資料3-2「正味財産増減予算書内訳表」、資料3-3「正味財産増減予算書(事業毎の予算 昨年度と比較)」が説明された。

上記(1)(2)の報告内容について、特別な問題指摘などは無かった。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2019年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

## 研究部会活動報告

### (1) 歴史・意匠部会

部会長 速水 清孝

今年度は、前年度までの継続となる「歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究」をテーマに据えて活動した。ことにこれに関することとして、「東北地方の近現代建築資料に関する研究」の題目で支部研究補助費をいただき、東北6県のうち、青森・岩手・秋田・山形の4県について、これまでほとんど手つかずの状態だった第二次世界大戦後に竣工した建築のリスト化に取り組み、700件余のリストを編んだ。これについては、今後、分析を精緻にしつつ、これらのリストの本会歴史的建築総目録データベースへの追加、また、保存すべき建築の抽出、それらの建設に当たって用意された図面や仕様書などの資料の残存状況の調査といったことに部会として取り組むことを予定している。

保存関係では、遠野駅舎(1951)や宮城県美術館(1980)の解体が報じられた。近現代建築の保存が社会的に急務であり、これに本会としてどのように対処していくかがますます問われるようになってきていることを再認識している。その点では前提となる基礎資料の作成となった本年度のこの活動は、着手したこと自体にまずは意味がある作業であった。

また、日本建築家協会の建築家大会2019青森 in HIROSAKI(10月17～19日、会場:弘前市民会館)で開かれた建築家・前川國男の建築模型展(「前川國男の8つの建築」展)に部会員が協力し、弘前に残る前川作品の模型を制作・展示した。

最後に、みちのくの風2019岩手では、歴史・意匠関連の発表は9題あったが、昨年度19題、一昨年度15題であったことを考えるとささか寂しく、題数の増加が望まれる。

### (2) 建築計画部会

部会長 坂口 大洋

東日本大震災発災から9年が経過し、多くの被災地において地域の復興拠点の役割を担う様々な公共建築の整備が進展してきています。これまでの、どのようにハード整備を行う段階から、これらの整備がどのように地域に貢献するかが問われる段階に移行しつつあります。

そのような背景を受けて、2019年4月21日(日)被災地の新たな復興拠点の一つ山元町新庁舎(設計:シーラカンズC+A)の内覧会と説明会を日本建築家協会東北支部、日本オフィス学会と共催のもと午前、午後の二回にわけて開催いたしました。当日は、各回とも日本建築学会東北支部建築計画部会坂口から開催趣旨を、山元町の復興計画策定支援と設計プロポのコーディネーターである小野田泰明先生(東北大学)から宮城県内の他被災自治体の例を参考に山元町の復興プロセスの特徴と本庁舎の計画背景の解説がありました。そして、設計を担当した赤松佳珠子先生(シーラカンズC+A)から、新庁舎の設計コンセプト、設計プロセス、建築概要について、配置計画から家具デザインに至るまで詳細に説明頂きました。

そのあと参加者は、開庁前の役場を自由な形で見学を行い開放的な空間構成と町民と役場とのインターフェイスを重視した庁舎空間を思い思いに見学をしていました。当日は午前中に114名、午後は79名と建築関係者を中心に県外からも多数の参加があり全体で193名の方々に参加いただき内覧会においても様々な場所で活発な意見交換が行われていました。また最後になりましたが、本企画開催に際して、山元町役場、日本建築家協会東北支部、シーラカンズC+A、東北大学小野田研究室の関係者の方々には準備及び当日の運営に多大なご尽力をいただきましたことに感謝し、この場をお借りして謝辞と代えさせていただきます。

### (3) 地方計画部会

#### 部会長 小地沢 将之

地方計画部会は、昨年度に引き続き「小地域のエリアマネジメント」をテーマに、教育研究や実務のさまざまなフィールドで活躍する部会員の関心領域の擦り合わせを行った。

2020年3月21日(土)には「官と民のあいだの小さな地区のまちづくり」と題したシンポジウムを仙台市内で開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響を鑑み、残念ながら開催を中止した。シンポジウムでは、地区・集落レベルの公民連携によるまちづくりの事例紹介と討議を行い、これからの時代の小さな地区でのまちづくりのあり方を見据える内容であった。

ここで紹介する予定であった事例の1つに、将監地区(仙台市泉区)での取組みがある。仙台市の公共施設等総合管理計画に基づいた公共施設の再編に、地域住民が能動的に関わり、国の補助金制度である公共施設等適正管理推進事業債を活用している取組みである。この取組みでは、地域住民や施設利用者らが公共施設の再編は不可避であることへの理解を深め、3施設の複合化に伴う面積減少などについて合意形成を行いながら、さらには将来、地域住民が主体となって施設管理を行うことについても検討を行っている優れた事例であり、ぜひともシンポジウムを通じて紹介したかったものである。

昨年11月に宮城県が宮城県美術館などの移転と再編を発表し、当支部も『宮城県美術館(建物・外構等)の保存活用に関する意見書』を知事宛に提出したところであるが、ハードへの愛着一辺倒な論点で公共施設の再編を議論しようとする姿勢については、当部会としては大いに疑問を感じている。

一刻も早く平穏な日常生活に戻ることを願いつつ、あらためてこれらの時代の公共のあり方について討議の場を設けたい。

### (4) 構造部会

#### 部会長 前田 匡樹

構造部会では、例年(一社)日本建築構造技術者協会(JSCA)

東北支部などの団体との連携して、講演会や構造デザインコンペなど、建築構造技術に関する研鑽、普及などを図ってきた。

令和元年6月29日(土)に開催された第6回JSCA東北支部構造デザインコンペには、「第1部 構造デザインコンテスト」(テーマ「美しいトラス構造の提案」)には、学生の部10チーム、実務者の部2チームが参加し、「第2部 構造デザイン発表会」では3件の設計事例の発表、さらに、「第3部 特別講演会」では、(有)桃李舎代表・梶田洋子氏による講演「新しい時代に構造設計者にもとめられること」が行われ、100名を超える参加者が集まった。

その他の講演会として、令和2年1月15日に、株式会社竹中工務店木造・木質建築推進本部 宮崎賢一氏を講師として、「中高層木造建築への取組 ～森林資源の活用とサステナブル社会の実現へ向けて～」、また、令和2年1月31日(金)に、大成建設株式会社・設計本部顧問 細澤 治氏を講師として「新国立競技場の設計について」(JSCA東北支部との共催)の2回開催し、いずれも学生から社会人までの100名を超える参加者を集めた。前者の講演会では、江東区立有明西学園、竹中研修所 匠 新館など、近年、竹中工務店が推進し注目を集めている木造・木質建築の先導的な事例の解説や、竹中工務店の今後の中高層木造建築への展望について、興味深い話題が提供された。後者の講演会では、今夏に開催される東京オリンピックのメイン会場であり、国内外から高く注目されているオリンピックスタジアムの基本計画、構造設計、及び、施工に関して、侏担当者しか知りえない裏話も含めて、詳細な解説がなされた。いずれの講演会でも、会員の構造設計の実務における多様性や工夫、将来の可能性について、造詣を深めることができたと思われる。

今後、講演会に加えて、見学会などを継続的に開催し、東北支部に関わる会員の建築構造に対する情報交換、研鑽の場を提供するとともに、産学官の連携を充実させていきたいと考えている。

### (5) 環境工学部会

#### 部会長 長谷川 兼一

環境工学部会では、研究テーマを「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」としており、部会員の専門性が反映できるような研究フレームを共有している。今期の活動では、定常的な部会を3回開催(6月、10月、12月)した。当部会は、空気調和・衛生工学会東北支部、建築設備技術者協会東北支部他の関連学協会との接点が多いため、定例的に実施しているイベントの共催・後援の実績が多い。また、親子の都市と建築講座では、毎年度企画を提案している。今期は12月28日に実施し、「もしも、おうちが「スマート」になったら」と題し、小中学生8名と保護者6名の参加を得た。これまでの一連の企画は、身の回りの環境を適切に保つために、データ通信・処理の技術を活用するとどのような価値が生まれるかを、子

供たちに実感してもらうことを意図している。小さな規模ではあるが、電子キットを駆使した体験型の講座であるため、参加者にはたいへん好評である。

部会では、先の建築学会東北大会の研究協議会「情報化がもたらす建築および環境分野の変革」を企画する際に議論を積み重ねた「情報化と環境」をテーマに、さらに展開を図ることとしている。今期は、特に、BIMをキーワードに部会員の情報共有を目的とした活動の計画を進めた。その一つに、BIM勉強会(12月26日)を開催し、大手ゼネコンの意匠設計者を招いてBIMを活用した建築設計・施工の実例を紹介していただいた。また、BIMの初学者を対象としてハンズオン・セミナーを企画に着手し、来期の実施に向けて準備を進めている。環境工学部会には、専門が異なる幅広い部会員に参加いただいているため、部会運営に当たってはいろんな引き出しを有している。その利点を活かして、東北支部の活動を盛り上げていきたいと考えている。

## (6) 材料部会

部会長 西脇 智哉

2019年度の材料部会では、前年度までの活動の継続として「サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み」をテーマとして活動を行った。部会を2回開催(うち1回は施工部会との共同開催)したほか、オランダ・デルフト工科大学 Stefan Chaves Figueiredo 氏の講演会を実施して委員間の情報共有に注力した。また、第3回目を2020年3月に計画していたが、新型コロナウイルスの影響により部会開催を断念せざるを得なくなってしまった。本部会活動だけでなく、広く活動を自粛せざるを得ない状況で、一日も早く日常が戻ることを祈念するばかりである。

本年度の開催実績は次の通りである。第1回部会に先立つ6月8日、東北大学青葉山キャンパスにて、上述のS. Chaves氏から「Smart Cementitious Composites for 3D Printing」の講演をいただいた。近年注目が集まるコンクリート3Dプリンタについて、繊維補強コンクリートや自己治癒コンクリートとの組み合わせなど、ヨーロッパでの先進的な取り組みについてご紹介いただいた。第1回部会は、「みちのくの風 2019 岩手」にあわせて、6月29日(土)に会場のアイーナいわて県民情報交流センターにて開催した。部会員の所属機関を一通り巡ったことを踏まえて、今後の活動方針について議論を行い、上述のコンクリート3DプリンタなどICT活用などの最新技術のレビューや、CLT関連、震災10年を迎えてのこれまでの取り組みの調査、アクティブラーニングなど近年の材料教育に関する取り組みなど、多岐に亘る意見を得た。第2回部会は、施工部会との共同開催として、東北工業大学一番町ロビーにて10月16日(水)に前田建設工業株式会社 ICI総合センター ICIラボ・梶田秀幸氏から、ICT利用など従来の業態に拘らない前田建設工業の取り組みについて幅広くご紹介いただいた。

## (7) 施工部会

部会長 飯藤 將之

前年度と同様に、「建築施工における技術継承と新たな展開」をテーマとして活動した。技術継承に関しては、5月の定例会で、委員が所属する企業における全社教育、系統別教育、職場教育、自己啓発に関する取り組みを紹介していただき、7月には、学校カウンセラーを招き、新入社員に「空気をよむこと」や「背中を見て育つ」ことを期待してはならない中で、社内のコミュニケーションをいかに取ってゆくかについて講演いただいた。新たな展開に関しては、10月に前田建設工業(株)の梶田秀幸を招き、virtualをrealにするためのオープンイノベーションの手法による総合インフラサービス業への展開について紹介していただいた。加えて10月には委員が所属する企業におけるBCPとタイムラインの取り組みを紹介していただいた。3月には、(仮称)石巻市複合文化施設建設工事の見学会を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため中止とした。

建設業就業者は、平成9年の685万人をピークに、平成の終わりには約3割も減少している。就業者の高齢化も著しく、人材を育てること、ICTの活用は必要不可欠で、当面本部会において「技術継承と新たな展開」を議論し続ける予定である。

## (8) 建築デザイン教育部会

部会長 櫻井 一弥

2019年度は、6月の「みちのくの風」に合わせて開催した「第5回建築デザイン発表会」の開催を大きな事業の一つとした。建築デザイン発表会の終了後に、部会員による「第5回建築デザイン発表賞」の選考を行った。また、もう一つの大きな事業として、2014年度よりJIA(日本建築家協会)東北支部との共催で実施している「建築学生テクニカルセミナー2019」を本年度も実施し、実りある成果が得られた。

第5回建築デザイン発表会は、2019年6月29日(土)13:00~13:44に、「みちのくの風2019」内の事業としてアイーナいわて県民情報交流センターにて行われた。応募4講演のポスター掲示と発表があったが、デザイン発表会らしく、様々な視点からまとめられたバラエティに富んだ内容であった。残念ながら例年よりも発表数が少なかったことが反省点として挙げられる。より多くの講演が集まるよう広報に力を入れる必要がある。

建築学生テクニカルセミナー2019は、2019年12月5日(木)13:00~15:00に、せんだいメディアテーク1階オープンスクエアで行われ、学生約50名、一般市民約20名、建築関係者約30名の計約100名が参加した。

上記2つの大きな事業に加えて、第23回JIA東北建築学生賞に対する本部会からの審査員派遣を行った。実施日時は2019年9月27日(金)12:30~17:50、実施場所はせんだいメデ

イアテーク1階オープンスクエアである。2014 年度より実施しているものであるが、建築実務界と教育機関との重要な交流の場として機能していると考えられる。

2020 年度は今年度と同様、建築デザイン発表会の開催等を大きな柱として事業を進めていく予定である。

## (9) 災害調査連絡会

### 部会長 佐藤 健

災害調査連絡会では、地震などの自然災害が発生した際に、迅速な被害調査、及び、復興支援活動を実施するための組織と連絡体制の整備に継続して取り組んでいる。委員長（佐藤健）のもと、支部内の8研究部会（構造、材料、建築計画、地方計画、歴史意匠、施工、環境工学、建築デザイン教育）の各部会長及び部会推薦委員からなる連絡・調整幹事会を設置し、本部災害委員会・東北支部代表委員（東北工業大学・堀則男教授）と連携しながら、災害発生時の情報発信と共有、被害調査の調整などを行っている。

2019 年度は、2019 年 6 月 18 日に発生した「山形県沖の地震（M6.7、最大震度 6 強）」の現地調査等について、東北支部としての調査団を組織することはしなかったが、東北工業大学の堀則男教授、山形大学の三辻和弥教授、永井康雄教授、村山良之教授ら、東北大学災害科学国際研究所の大野晋准教授、柴山明寛准教授らと連携し、調査計画の打ち合わせや、初動調査結果の情報共有等を行った。

また、2019 年 10 月 12 日（土）～13 日（日）にかけて記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらした令和元年台風 19 号の現地調査等について、東北支部としての調査団を組織することはしなかったが、東北大学災害科学国際研究所（柴山明寛准教授、定池祐季助教ら）と連携するとともに、文部科学省突発災害調査研究の一環として学校を中心とした被害と対応に関する調査を実施することとなった。

## 支所だより

### 青森支所

#### 青森支所長 盛 勝昭

2019 年度の青森支所の活動状況について報告いたします。5 月 20 日第 1 回幹事会において、講習会等の年間事業計画および収支予算等を議決・承認しました。その後も打ち合わせを重ね、事業の実施に向けて細部を検討いたしました。

6 月 24 日に開催した全員協議会では、幹事会で議決された事業計画を報告し、出席者全員に協力をお願いするとともに親睦を深めました。全員協議会の後半では、森内建設株式会社 代表取締役 森内忠良様を講師にお迎えし「キールの軍港の再開発状況」と題し、以下の内容のご講演をいただきました。「第二次大戦で大部分が破壊された街で、建物が建築される前とその後の街の様子に興味があった。聖ニコライ協会の尖塔の上からはおだやかな海に浮かぶヨットと市街地、港や倉庫街など古い建物と新しい建物が融合している街並みが一望できる。フィヨルドのおだやかな海と、海に面した建物群は、港があつて駅が近い青森市と似ていて青森の可能性を探りたいと感じた。」



7 月 9 日には青森県建築士会青森支部と共催で「平成 30 年改正建築基準法解説」講習会を開催。青森市都市整備部建築指導課担当官を講師に招き、改正内容に関する政省令・告示の概要を解説していただきました。



10 月 12 日、13 日には 2019 年度の『東北建築賞受賞作品展覧会』が、八戸工業大学を会場に開催されました。

青森支所では、今後も地域にねぎらった活動で貢献してまいりたいと思います。

## 秋田支所

### 秋田支所長 荻谷 哲朗

「第48回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール」が、本年も多数の応募者の参加により秋田市の秋田拠点センターアルヴェにて無事に開催されました。

今年度のコンクールは、高校生らしい自由な発想が多く、表現力や計画から提案までの構成力など、設計全般に関するスキルの向上が各作品に見られた。特に、地域の課題に対して真摯に向き合い、作品の随所に課題解決に対する設計者の強い想いが感じられる作品が多く、甲乙付け難い作品の中から審査員による厳正な審査が行われました。最優秀賞の秋田県知事賞は、秋田工業高等専門学校、安藤星空さんと小林葵さんによる『変化する小学校～メタボリズムのその後→地域のコミュニティと学びをごちゃ混ぜドン!!～』が受賞されました。この作品は、秋田市大町の竿灯大通りに面した敷地を対象に、人口減少と都市居住に対応した小学校の再編をテーマとし、今後の技術革新や社会変化に対応した新陳代謝する公共施設のあり方を提案された内容である。特に、子どもの数が減少する社会情勢の中で、小学校の活用に真摯に取り組んだ作品で、20年、30年後のシナリオを描いた点が、建築のあるべき姿や建築の可能性を広げるリアリティの高い作品であると高く評価された。

秋田支所では、本コンクールを通じて互いの作品に触れ合うことにより、更なる高校生のレベルアップを期待しております。今後も、地域に根差した活動により地域に貢献していく所存でございます。



表彰式写真

## 岩手支所

### 岩手支所長 伊藤 勇喜

2019年度の岩手支所の活動状況について報告します。

令和元年11月28日(木)に「第43回盛岡市都市景観シンポジウム」が盛岡市主催のもと開催され、当支所などが後援いたしました。

今回のシンポジウムでは、『令和』の時代へ継承していきたい盛岡の景観～平成を振り返り、令和へのテーマ探る～』と題し、基調講演では、ふじポン氏(フリータレント)を迎え、私の盛岡愛について御講演、また、パネルディスカッションでは、コーディネ

ーターに高橋美佳氏(元テレビ岩手アナウンサー)を、パネリストには真山重博氏(NHK文化センター講師)、菊地絵未氏(花巻市)、松本静毅氏((有)カメラのキキヤ代表取締役)、ふじポン氏(フリータレント)を迎え、「継承していきたい盛岡の景観」をテーマに、盛岡市のよい景観の場所をはじめ、これまでの盛岡のまち並や景観の変遷を振り返りながら、次世代に継承すべき取り組みや課題などの意見が交わされました。

また、令和元年12月2日(月)～12月6日(金)には「第39回東北建築賞作品展示会」を岩手県庁県民室にて開催いたしました。

岩手支所では今後も、地域で開催される建築関係の活動等に対し後援などを行うとともに、機会を捉えて地域社会との交流を図る諸事業の実施に努めてまいります。



東北作品展示会

シンポジウム

## 山形支所

### 山形支所長 相羽 康郎

昨年度の3テーマを、指定文化財の旧山形師範学校木造講堂(旧講堂)と空家活用の2テーマに絞り本年度はAIJ主催、JIA、建築士会、建築士事務所協会の共催、県教育委員会の後援のもと合計2回WSを行った。山形中央公民館でいずれも約10名の参加者であった。

第1回目 11月9日

補強根拠の文化的価値を専門家にお願ひし、外観保存を前提に内部鉄骨フレーム案、内壁薄板鋼板補強案が提案された。保存・改修によってまちづくりに貢献する可能性を整理すべきである。また内部を見学したい。

文化財以外でも建築的価値や庭の良さ等価値ある物は残せるよう、空家ガイドライン作成、法整備化をしていく。

街歩きなど、まちの魅力を発信できる活動も必要で、史跡等だけでなく、街に馴染んでいる建築の価値などの紹介、空家を積極的に活用するエリアの設定も必要である。



## 第2回目 2月8日

WSメンバー4名と県関係者らが12月6日に旧講堂内部等を視察した結果を発表した。構造補強に基礎の補強が必要であり、断熱・空調等設備目的にも屋内側へ基礎を打ち、屋外側を現状のまま保存する。現瓦屋根から鋼板屋根に屋根重量を減らす。街歩きスポットの休憩所としてカフェ等、50年後にも価値のある改修・建築となるように計画することが重要である。

空家は、確認済証と検査済証の有無がリノベ工事の算定根拠等に影響する。家の履歴書が整備されるとよい。耐震診断で精密診断法を専門家と連携して行う等廉価で活用できる方策が求められる。法6条4号建築物の大規模修繕・模様替えが確認申請不要の件でも、建築基本法まで広げないで県や市の条例により、耐震補強等について、基準法との上手な付き合い方を定める方向に向けて、4団体が行えることを検討できるのではないか。

来年度も継続してWSを、歴史文化ゾーン見学後に現地関連施設で行う方向も考える。



講座は、小・中学生親子等13名(5チーム)に参加いただき、「応力の体感」や「力のかたち」に関する座学と1枚のボール紙で70cm離れた台に架ける「梁」を製作し、吊り下げられるおもりの重さを競うワークショップを通じて、建築を楽しく知ってもらい、建築への興味の醸成を図りました。梁が座屈する毎に子ども達から大きな歓声が上がりました。

2月25日に福島市で実施した『第12回福島県建築系高校卒業設計優秀作品表彰式』では、4校12人に表彰状と盾、記念品を贈り、高校生活で培った技術や創造性をたたえました。

『第39回東北建築賞受賞作品展示会』は、2月11日から13日までの3日間、郡山市にて、「JIA東北支部福島地域会」及び「日本大学工学部卒業設計作品展」と合同で開催しました。学生の想像力溢れる意欲的な作品から、第一線で活躍する建築家の作品まで、数多くの建築作品が並び、見応えのある作品展となりました。また、展示会とあわせて12月に逝去した建築家芳賀沼整氏の功績や足跡について語り合いました。

今後も学術的な研究等を福島の復興や地方創生に向けて広く還元し、発信するため、地域の教育機関や関係団体と連携・協働しながら、地域に根差した支所活動や事業の更なる充実に努めてまいります。



親と子のやさしい構造力学講座



東北建築賞受賞作品展示会

## 福島支所

### 福島支所長 大竹 健義

2019年度の福島支所の活動状況について報告いたします。

今年度は、『「親と子の建築講座」～親と子のやさしい構造力学講座～』、『第12回福島県建築系高校卒業設計優秀作品表彰式』への協賛、『第39回東北建築賞受賞作品展示会』の実施を中心に活動しました。

『「親と子の建築講座」～親と子のやさしい構造力学講座～』は、8月24日に福島市の「福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ」で開催しました。

## 支部役員会から

### 常議員（総務企画）橋詰 豊

支部役員会は、支部長と14名の常議員で構成される。常議員は、会務を処理するため、支部役員会において会務を審議し、議決するものと定められており、東北支部全体の運営を担っている。支部役員会は、年2回以上支部長が招集することとされているが、基本的には隔月程度の頻度で開催されている。

本年度は、支部役員会が5月、7月、9月、12月、2月、3月に開催され、粛々と会務の処理を行うことができた。また、支部役員会の開催に際しては、昨年度より導入したWEBEXを介しての参加も可能としており、移動時間削減に伴う出席者の増加と、旅費削減に効果を上げている。

さらに、恒例となっている支部研究報告会を核とした「みちのくの風」の運営でも中心的な役割を果たしている。本年度は「みちのくの風2019岩手」と題して、第82回東北支部研究報告会と併せて第5回東北支部建築デザイン発表会が開催され、6月29日（土）に、盛岡市のアイーナいわて県民情報交流センターで開催された。招待講演として「自然災害から何を学んできたのか」と題して、緑川光正先生（国立研究開発法人 建築研究所理事長）による講演が行われた。同会場では、第39回東北建築賞受賞作品展示会とJIA東北支部のご協力を得て、JIA岩手地域作品展示会を同会場にて開催した。いずれの企画も多くの参加者を集め、盛況のうちに無事終了することができた。

この他、支部長と総務・企画担当常議員は4月に総務会を開き新年度の準備に当たったほか、9月には支部長・総務企画担当常議員も出席して支所長会議を実施し、みちのくの風、日本建築学会文化賞の推薦、次年度からの支所交付金の取り扱いについて報告・審議と意見交換を行った。2019年度の支部役員会で取り上げられた主な議事を以下に示す。

#### ■4月総務会（2019年4月18日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、決算報告、代議員選挙結果、常議員選挙結果・役割分担、支部研・デザイン発表会論文募集の報告と懸案事項、建築年報への事業報告、支部年報編集報告 [審議事項]総会資料（司会進行・懇親会）、みちのくの風2019岩手について、後援依頼、研究委員会部会規則の文言確認、事務局職員の給料に昇給について

#### ■5月支部役員会（2019年5月11日開催）

[新旧役員の引継ぎ] [報告事項]理事会報告、総会進行確認、みちのくの風2019岩手・業務確認、会計報告、建築文化週間事業報告、本部学術推進委員会開催報告 [審議事項]支部長代行者、学術推進委員会への支部代表、みちのくの風2020福島について、次年度から卒業設計展示会について、2019年度災害委員会支部市民企画募集、後援依頼、オンラインストレージの使用法

#### ■7月支部役員会（2019年7月18日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、総会報告、みちのくの風2019岩手開催報告、作品選集2020応募作品と支部選考部会審査経過、本会設計競技支部審査報告、後援依頼承諾、災害委員会支部企画申請、学術推進委員会開催報告、 [審議事項]本会文化賞推薦依頼、本会教育賞推薦依頼、本会大賞推薦依頼、調査研究委員会ならびに支部での検討依頼、次年度の支部総会日程、みちのくの風2020福島、次年度からの支部研究報告会について、次期支部長選挙について

#### ■9月支部役員会（2019年9月18日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、作品選集2020支部審査報告、第21期代議員および支部役員選挙、東北建築賞応募報告および東北建築作品発表会、後援・協賛依頼承諾、設計競技支部入選、建築基礎構造設計指針改定講習会開催 [審議事項]みちのくの風2020福島\_エクスカージョン、選挙管理委員会の設置、2020年度設計競技支部審査員、女性会員の会について、後援依頼

#### ■11月支部役員会（2019年12月2日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、代議員常議員候補者届出報告、東北建築作品発表会、東北建築賞研究奨励賞選考委員会、後援依頼承諾、作品選集東北支部部会次期委員選出報告、2019年度設計競技支部審査員選出報告、支部研・デザイン発表会申込受付フォームの進捗状況、後援依頼承諾、構造本委員会への支部代表交代 [審議事項]大会決算報告、2019年度支部総会日程・会場・担当・付随行事、みちのくの風2019岩手、2019年度支部予算案、支部研究報告集論文募集スケジュール・募集要項、建築デザイン発表会募集要項、支部年報発刊、支部研究補助費申請、全国大学高専卒業設計展示会会場確認、事務局の処遇、司法支援建築会議東北支部発足、後援依頼承諾、

#### ■2月支部役員会（2020年2月17日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、支部研究補助費申請報告、東北建築賞作品賞選考報告、秋田支所からの賞状贈呈依頼承認報告、2020年度全国・大学高専卒業設計展示会の日程報告、建築基礎構造設計指針改定講習会の開催報告、支部年報40号原稿執筆依頼、学術推進委員会報告、保存要望書提出報告[審議事項]みちのくの風2020福島、第41回東北建築賞要項確認、2020年度親と子の建築講座と建築文化事業、後援依頼

#### ■3月支部役員会（2020年3月30日開催）

[報告事項]理事会支部長会議報告、会計報告、代議員選挙結果報告、支部研・デザイン発表会論文提出報告[審議事項]支部総会、みちのくの風2020福島、みちのくの風2021山形、東日本大震災から10年目の行事について

## 2020年度 支部役員名簿

### 東北支部常議員の構成と役割分担

役割	2019年度	2020年度
	(2019年6月～2020年5月)	(2020年6月～2021年5月)
支部長	石川 善美 (東北工大)	石田 壽一 (東北大)
総務 企画	山岸 吉弘 (日大)	原田 栄二 (東北大)
	橋詰 豊 (八戸工大)	畠山 雄豪 (東北工大)
	原田 栄二 (東北大)	相模 誓雄 (仙台高専)
	畠山 雄豪 (東北工大)	菅野 秀人 (秋田県立大)
	相模 誓雄 (仙台高専)	宮崎 渉 (日大)
社会 文化	飛ヶ谷潤一郎(東北大)	山田 義文 (日大)
	齋藤 和哉 (齋藤和哉建築設計 事務所)	手島 浩之 (都市建築設計集団/ U A P P)
	山田 義文 (日大)	西脇 智哉 (東北大)
学術 教育	仁科 妃里(東北文化学園大)	一條 佑介 (東北文化学園大)
	畑中 友 (東北工大)	曹 森 (東北工大)
会計 会員	高橋 良子 (仙台市)	高橋 良子 (仙台市)
	田村 俊哉 (JR東日本)	田村 俊哉 (JR東日本)
図書 情報	浅野 耕一(秋田県立大)	濱 定史 (山形大)
	濱 定史 (山形大)	西尾 洸毅 (八戸工大)
事務局	伊藤 章子	伊藤 章子

### 東北支部会員数(2020年3月1日現在)

名誉会員	2名
終身会員	61名
正会員(個人)	1,113名
正会員(法人)	35法人
準会員	54名
賛助会員	7法人

### 支部監事

2020年6月～2021年5月  
 崎山 俊雄(東北学院大)  
 大橋 佳子(仙台市)

### 東北支部選出代議員

任期	代議員
2019年4月 ～2021年3月	岩田 司 (東北大学教授) 浦部 智義 (日本大学教授)
2020年4月 ～2022年3月	松本 真一(秋田県立大学教授) 持田 灯(東北大学教授)

### 研究部会長

研究部会	部会長
構造部会	前田 匡樹 (東北大学教授)
材料部会	石山 智 (秋田県立大学准教授)
建築計画部会	坂口 大洋 (仙台高等専門学校教授)
地方計画部会	小地沢将之(宮城大学准教授)
歴史意匠部会	速水 清孝 (日本大学教授)
施工部会	飯藤 将之 (仙台高等専門学校教授)
環境工学部会	長谷川兼一 (秋田県立大学教授)
建築デザイン教育部会	櫻井 一弥 (東北学院大学教授)
災害調査連絡会	佐藤 健 (東北大学教授)

### 支所長

支所	支所長
青森支所	盛 勝昭 (株盛興業社 代表取締役)
秋田支所	松本 真一 (秋田県立大学建築環境システム学科教授)
岩手支所	辻村 俊彦 (岩手県土木整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	相羽 康郎 (特定非営利活動法人まちづくり山形理事)
福島支所	大竹 健義 (福島県土木部建築住宅課長)

## 2019 年度事業報告

### 〈事務の部〉

総 会	1. 2018 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2019 年度事業計画・予算案	2019 年 5 月 11 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (8)、総務会 (1)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、作品選集支部選考部会 (2)、司法支援建築会議東北支部 (6) その他部会など開催	( ) は回数
代議員半数改選	(留任) 有川 智、速水清孝 (新任) 岩田 司、浦部智義	2018 年 4 月～2020 年 3 月 2019 年 4 月～2021 年 3 月
支部長改選	(留任) 石川 善美	2018 年 6 月～2020 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 大橋佳子、小林 仁、崎山俊雄、高木理恵、堀川真之、町野東彦、本江正茂 (留任) 浅野耕一、畑中 友、齋藤和哉、飛ヶ谷潤一郎、二科妃里、橋詰 豊、山岸吉弘 (新任) 相模誓雄、高橋良子、田村俊哉、畠山雄豪、濱 定史、原田栄二、山田義文	2017 年 6 月～2019 年 5 月 2018 年 6 月～2020 年 5 月 2019 年 6 月～2021 年 5 月
支 部 監 事	崎山俊雄、大橋佳子	2019 年 6 月～2020 年 5 月

### 〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [研究テーマ] 構 造 : 前田匡樹 耐震補強技術における新しい試みに関する研究調査 材 料 : 西脇智哉 サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 小地沢将之 小地域のエリアマネジメント 歴史意匠 : 速水清孝 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 長谷川兼一 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 飯藤将之 建築施工における技術継承と新たな展開 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 佐藤 健 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	・東北地方の近現代建築資料に関する研究 歴史意匠部会 (研究代表者 速水清孝)	2019 年 4 月～2020 年 3 月
支部研究報告会	2019 年度第 82 回東北支部研究報告会 研究報告集第 82 号計画系・構造系刊行 発表題目 74 題	2019 年 6 月 29 日 アイーナいわて県民情報交流センター
デザイン発表会	2019 年度第 5 回東北支部デザイン発表会 発表題目 4 題	2019 年 6 月 29 日 アイーナいわて県民情報交流センター
支部主催 支部共催 イベント	1. 支部主催 1) 建築教育文化事業 建築文化週間事業 第 30 回「東北建築作品発表会」の開催 (仙台市) 2) 第 39 回東北建築賞表彰式ならびに受賞記念講演会 4) 第 40 回「東北建築賞」の選考 5) みちのくの風 2019 岩手 ・支部研究報告会と緑川先生の招待講演	2019 年 10 月 5 日 せんだいメディアテーク 2019 年 5 月 11 日 せんだいメディアテーク 2019 年 10 月～2020 年 1 月 2019 年 6 月 29 日

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回建築デザイン賞表彰式</li> <li>・第39回東北建築賞受賞作品展示会</li> </ul> <p>2. 支部共催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第39回東北建築賞受賞作品展示会</li> <li>仙台市、盛岡市、由利本荘市、八戸市、郡山市</li> </ul>	<p>アイーナいわて県民情報交流センター</p> <p>2019年6月～2020年2月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第39回東北建築賞 作品賞部門 作品賞3点、特別賞2点 研究奨励賞部門 2点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰 4名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 法人会員10社、賛助会員3団体、個人会員3名、</p> <p>4. 日本建築学会終身正会員7名の紹介</p>	<p>2019年5月11日</p> <p>せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員協議会</li> <li>・第39回東北建築賞受賞作品展示会：八戸市</li> </ul> <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第39回東北建築賞受賞作品展示会：由利本荘市</li> <li>・第48回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール</li> </ul> <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第39回東北建築賞受賞作品展示会：盛岡市</li> </ul> <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第39回東北建築賞受賞作品展示会：山形市</li> <li>・支所事業 建築物の保全活用に関するワークショップ</li> </ul> <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第39回東北建築賞受賞作品展示会：郡山市</li> <li>・親と子の建築講座「親と子のやさしい構造力学講座」</li> </ul>	<p>2019年7月</p> <p>2019年10月12日・13日</p> <p>2019年11月23日～25日</p> <p>2020年2月6日～8日</p> <p>2019年12月2日～6日</p> <p>2019年9月30日～10月4日</p> <p>2019年11月9日</p> <p>2020年2月11日～13日</p> <p>2019年8月24日</p>
刊行活動	<p>支部年報第39号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第82号計画系・構造系ならびに第5回建築デザイン発表会梗概集（CD-ROM）発刊</p> <p>東北建築作品集（第30号）発行</p>	<p>2019年5月11日</p> <p>2019年6月29日</p> <p>2019年10月5日</p>

### 〈支部共通事業〉

講習会	<p>2019年度日本建築学会支部共通「建築基礎構造設計指針」改定講習会</p>	<p>2019年12月20日</p> <p>ハーネル仙台</p> <p>参加者：124名</p>
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会</p> <p>山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市</p>	<p>2019年6月～2019年11月</p>
審査会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度支部共通 日本建築学会設計競技</li> <li>テーマ：「ダンチを再考する」</li> <li>・日本建築学会「作品選集2020」東北支部選考部会</li> </ul>	<p>2019年7月16日</p> <p>支部事務所会議室</p> <p>2019年6月～9月</p> <p>支部事務所会議室</p>

## 2020 年度事業計画（案）

### 〈事務の部〉

総 会	1. 2019 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2020 年度事業計画・予算案	2020 年 5 月 16 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (9)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (2)、作品選集支部選考部会 (2)、研究部会連絡会 (1) 司法支援建築会議東北支部 (6)、建築学会女性会員の会 (1)	( ) は回数
代議員半数改選	(留任) 岩田 司、浦部智義 (新任) 松本真一、持田 灯	2019 年 4 月～2021 年 3 月 2020 年 4 月～2022 年 3 月
支部長改選	(退任) 石川善美 (新任) 石田壽一	2018 年 6 月～2020 年 5 月 2020 年 6 月～2022 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 浅野耕一、畑中 友、齋藤和哉、飛ヶ谷潤一郎、二科妃里 橋詰 豊、山岸吉弘 (留任) 相模誓雄、高橋良子、田村俊哉、畠山雄豪、濱 定史 原田栄二、山田義文 (新任) 一條祐介、菅野秀人、曹 森、手島浩之、西尾洸毅 西脇智哉、宮崎 涉	2018 年 6 月～2020 年 5 月 2019 年 6 月～2021 年 5 月 2020 年 6 月～2022 年 5 月
支 部 監 事	崎山俊雄、大橋佳子	2020 年 6 月～2021 年 5 月

### 〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [研究テーマ] 構 造 : 前田匡樹 耐震補強技術における新しい試みに関する研究調査 料 材 料 : 石山 智 サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 小地沢将之 小地域のエリアマネジメント 歴史意匠 : 速水清孝 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 長谷川兼一 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 飯藤将之 建築施工における技術継承と新たな展開 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 佐藤 健 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
支部研究補助費による研究	・東北地方における公共施設等総合管理計画策定状況と施設集約化・複合化の基礎調査 建築計画部会 (研究代表者 坂口 大洋)	2020 年 4 月～2021 年 3 月
支部研究報告会	2020 年度第 83 回東北支部研究報告会 研究報告集第 83 号計画系・構造系刊行 発表題目 84 題 2020 年度第 6 回東北支部デザイン発表会 発表題目 10 題	2020 年 6 月 20 日 コラッセふくしま
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 2) 第 31 回「東北建築作品発表会」の開催 (仙台市) 3) 第 41 回「東北建築賞」の選考 4) 第 40 回東北建築賞表彰式 5) みちのくの風 2020 福島 ・支部研究報告会と招待講演 ・第 6 回建築デザイン発表賞表彰式 ・第 40 回東北建築賞受賞作品展示会、JIA 福島地域会作品展示会	2020 年 10 月 2020 年 10 月 2020 年 10 月～2021 年 1 月 2020 年 5 月 16 日 せんだいメディアテーク 2020 年 6 月 20 日 コラッセふくしま

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北探訪 2020 福島県浜通りにおける原子力災害からの復興</li> <li>2. 支部共催 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業</li> <li>2) 第40回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市</li> </ul> </li> <li>3. 女性会員の会 2020</li> </ul>	<p>2020年6月21日</p> <p>2020年9月～12月 2020年6月～2021年2月</p> <p>未定</p>
研究部会主催	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. シンポジウム</li> <li>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</li> </ul>	
表彰	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 第40回東北建築賞作品賞部門 作品賞5点、特別賞2点 研究奨励賞部門 1作品</li> <li>2. 日本建築学会設計競技全支部入選者の紹介</li> <li>3. 日本建築学会功労者表彰 法人会員2社、個人会員2名</li> <li>4. 終身正会員6名の紹介</li> </ul>	<p>2020年5月16日 せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員協議会</li> <li>・第40回東北建築賞受賞作品展示会：八戸市</li> <li>・講習会</li> </ul> <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第40回東北建築賞受賞作品展示会：由利本荘市</li> <li>・第49回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール</li> </ul> <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第40回東北建築賞受賞作品展示会：盛岡市</li> </ul> <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第40回東北建築賞受賞作品展示会：山形市</li> <li>・「親と子の都市と建築講座」</li> </ul> <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第40回東北建築賞受賞作品展示会：郡山市</li> <li>・「親と子の建築講座」</li> </ul>	<p>2020年7月 2020年10月 2021年2月</p> <p>2020年7月 2021年2月</p> <p>2020年11月</p> <p>2020年6月 2020年7月</p> <p>2021年2月 2020年8月</p>
刊行活動	<p>支部年報第40号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第83号計画系・構造系（第6回東北支部デザイン発表会込）CD-ROM 発刊</p> <p>東北建築作品集（第31号）発行</p>	<p>2020年5月16日 2020年6月20日</p> <p>2020年10月</p>

### 〈支部共通事業〉

講習会	<p>「鉄筋コンクリート構造保有水平耐力計算規準」改定講習会</p> <p>「鉄筋コンクリート造配筋指針」改定講習会</p>	<p>2020年11月予定</p> <p>2020年12月予定</p>
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会</p> <p>山形市、由利本荘市、仙台市（東北工大）仙台市（大会）、郡山市、八戸市</p>	<p>2020年6月～11月</p>
審査会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度支部共通 日本建築学会設計競技 課題「外との新しいつながりをもった住まい」</li> <li>・日本建築学会「作品選集 2021」東北支部選考部会</li> </ul>	<p>2020年7月 支部事務所会議室</p> <p>2020年6月～9月 支部事務所会議室</p>

## 法人・賛助会員

阿部建設(株)	(株)阿部重組
(株)工藤組	(株)三上構造設計事務所
(株)関・空間設計	千田総兵衛建築事務所
鹿島建設(株)	(株)本間利雄設計事務所+ 地域環境計画研究室
(株)久米設計	
(株)熊谷組	東日本旅客鉄道(株)
清水建設(株)	東北電力(株)
仙建工業(株)	一般社団法人 東北空気調和衛生工事業協会
大成建設(株)	
(株)竹中工務店	八戸工業大学
(株)昴設計	クレハ錦建設(株)
戸田建設(株)	日本原燃(株)
(株)ユアテック	(株)楠山設計
西松建設(株)	(株)ティ・アール建築アトリエ
(株)安藤・間	(株)I N A新建築研究所
堀江工業(株)	(株)東北開発コンサルタント
前田建設工業(株)	山形県立図書館
(株)ピーエス三菱東北支店	日本大学図書館工学部分館
(株)三菱地所設計	東北芸術工科大学
(株)山下設計	日刊建設産業新聞社
(株)梓設計	仙台コンクリート試験センター(株)
東日本興業(株)	